

趣 旨

自ら考え、主体的に判断し、安全な生活を実践する能力や態度を育成するための、学校・家庭・地域が連携した安全教育の進め方、また、防災・防犯など学校における安全管理のあり方について協議する。

協議題

- 1 学校や地域の実態に即したマニュアルの作成とその運用について
- 2 非常災害時において、安全に行動できる能力や態度を育成するための安全教育の進め方について
- 3 学校・家庭及び地域社会と連携した防災教育・安全管理の進め方について

第 8 分科会

発 表 主 題	発 表 者	
	所属名及び職名	氏 名
命を守る主体的姿勢を育む防災教育 ～自分の命は自分で守る～	長崎県島原市立三会小学校 校 長	下 田 恭 子
主体的に行動する力を身につけた生徒の育成 ～自分の命を守り抜く力の向上を目指して～	熊本県南阿蘇村立久木野中学校 教 諭	古 賀 元 博
危険を予知し、安全に行動する能力や 態度を育てる安全教育の在り方	大分県杵築市立護江小学校 校 長	安 藤 仁

役 員	所属名及び職名	氏 名
指 導 助 言 者	熊本県八代市立泉小学校 副校長	淵 田 尚 史
司 会 者	宮崎県美郷町立南郷中学校 教 頭	永 野 裕 一

質疑応答及び研究協議

1 質疑応答

【質問1】古賀先生の発表について

自主防災訓練時に、生徒に事前に内容を伝えずに行ない、火元に生徒が戻ってしまったことで、緊急放送を聞くことが大切だとよく分かった。その時の生徒の様子を、詳しく教えていただきたい。

(宮崎県 大塚中 永井)



【回答】

平成24年度防災訓練を実施する時に、5・6時間目始めに知らせ、教室で指示があり避難する流れをとっていたが、昼休みに時間を早めて実施した。煙の出ている昇降口を通り、上靴をはいてあわてて教室に戻り、先生の指示を聞いて、避難行動した。2回目からは、時間割に入れず突然実施した。具体的な内容は、私と校長・養護教諭3名が知った状況で、先生方には、時間も大まかにしか教えていなかった。指示を説明していなかったため、そわそわしていた。

(発表者 古賀)

【質問2】下田・古賀・安藤先生の発表について

先生方の意識が低く、ここまで津波が来ないだろうと想定内の訓練ばかりしている。先生方への意識を変える取組を詳しく教えていただきたい。また、学校に毛布・非常食などのグッズを備蓄しているかも知りたい。

(宮崎県 細田小 越智)

【回答】

危機管理については、意識の温度差がある。大火災流があり避難したことがある。これぐらいでいいだろうということはありません。

先生方は、黙って避難しないとイケないという意識があり、子どもたちは叱られてはイケないという意識が働く。そのようなことではなく危険が身に迫った時に、どのように行動するか考えておかないと、学校で避難訓練した時に何とかなっても、社会に出た時にどういう所で災害に遭うかわからない。島原市では、市に非常食が確保してあり、6月3日に非常食体験を行い、非常食を入れ替える。タオルケット・毛布は市から体育館に運んでくれる。

(発表者 下田)

大阪・東京研修に行った時に、関東、関西の先生は、意識が高いと感じた。防災訓練を中心に想定外の対応を求めることで、意識は高まってきたと思う。備蓄については、いざという時のために簡易トイレがある。食事の備蓄をすると、悪くなることがあると聞いたので、近隣のコンビニと提携し、災害が起こった時、優先して食料を送っていただくように考えていかなければと思っています。

(発表者 古賀)



一番大切なのは、リスクマネジメント、リスクをしっかりと洗い上げ、リスクに応じた対応をしておく。4月当初、プール・遊具の総点検をし、登下校含めてのリスクをしっかりと把握する。どう対応するかが1番大きい。安全管理の「さしすせそ」の「さ」最悪を想定する。

子どものけがについても同様だが、経験の中で、目に異物混入のまま授業をさせていた児童がおり、保護者に連絡、眼科受診の指示をし、治療が必要な場合があった。自己判断・あいまいな判断はしないようにいつも言っている。お

かしいと思ったら、医療機関に連れて行く。リスクマネジメント、常に最悪を想定することを管理職が言わないといけないと思っている。

(発表者 安藤)

2 研究協議

[質問1]

「危機管理意識を高く持つ」というキーワードが出てきた。安全管理に関わるマニュアル、安全教育の視点からないか。学校安全計画に基づく実践など、質問・意見はないか。KYTの実践の紹介などをお願いしたい。

(司会 永野)

【意見】

保健学習の中で、中2で傷害防止がある。警視庁のホームページに危険回避のトレーニングがあり、自動車編・自転車編・歩行者編等10秒位答えると正解が出る。防災教育と関係はないが、そういうものがある。

(熊本県 久木野中 境)

[質問2]

予告なしの避難訓練を近日中にすると伝え実施した。問題点があるのか。そこまでしている学校はあるのか。課題としては、何があるのかご意見をお聞きしたい。

(宮崎県 教育委員会 岩切)

【回答】

予告なしに実施した。低学年がトイレに入っており怖かった経験がある。失敗したと思った。昼休みに終わった頃にするなどの予告をする。予告なしにすることも大切なので、一人での時など先生方に指導をしてもらうことにしている。

(発表者 下田)

1回目は、予想内の動き。2回目は消防車等に気付いた。特別な配慮が必要な児童、けがをしている児童には、あらかじめ声掛けをしている。

(発表者 古賀)

想定外・予告なしの訓練はしない。必ず何時何分頃の予告をしている。避難経路が3通りあり、回数を多くして子どもたちに逃げ方をしっかり身に付けてもらう。

(発表者 安藤)

意識は、本年度は違う。その場にいる者が臨

機応変に対応する。東京に視察に行った時月1回いろいろな場面で実施していた。

国分寺市の第一中学校でホームページに出ていると思うので、興味のある方は、見るというのではないかと思います。

(熊本県 久木野中 境)

職員の意識は高くない。マニュアル通りの避難訓練を行っている。PTA研修視察を、鹿児島島の防災センターに行き研修をした。学校全体に広めることができない状況であった。防災研修センターができ、8月の研修は、そこにいくことになっている。少しずつではあるが、職員・保護者に広めていきたい。

(鹿児島県 東郷中 佐多)



[質問3]

職員の温度差については、共通の悩みがある。組織的に意識を高め防災に備えるという取組については、如何か。

(司会 永野)

【回答】

島原市女性消防団があり、地域の方々も協力してくださる。災害があった時に取り残されないことが大切なので引き抜きをする。教室にいない児童がいる時、先生方の指導もして下さる。本校では、緊迫感を持って実施できていると思う。

(発表者 下田)

管理職がいない時に誰が指揮をとるのか、職員が12名しかいないので、誰かがやらないといけない状況にあるので、危機意識は高まってきている。

(発表者 古賀)

組織で対応するのは、リスクを共有すること。それをしないことには、共通認識は生まれえない。そこからしなければならぬ。そこから出発すると意外とうまくいく。

(発表者 安藤)

指導助言

熊本県八代市立泉小学校

副校長 瀧田 尚史

発表いただいた「実践発表で気づいた事」・協議の「マニュアルの作成や安全教育の進め方」について何点か話をさせていただくが、その前に協議の中で話題になったことについて話をしたいと思う。



まず、「先生方の安全教育に対する意識の低さ」ということが指摘されたが、実は熊本県でもこれが大きな課題である。東日本大震災があった次の年に群馬大学の片田先生を講師に迎え、まずは管理職の意識を高めようと特別支援学校を含む全ての学校の管理職を集めた講習会を実施した。その中でごく少数ではあるが管理職の感想に「学校はすることがいっぱいある。優先順位がある。」という意見があり、なかなか難しいと感じた。また昨年度は釜石の奇跡と言われている釜石東中の校長不在の時に陣頭指揮をとられた現在吉浜中の村上先生を講師に担当者を対象として具体的な内容の講習会を行ったが、その時も意識の高揚がなかなか難しいと感じたところである。特に県立高校では「型通りの避難訓練で終わり」という安全教育であったので、火災による避難訓練を実施する際に、地震による避難訓練も抱き合わせて実施するようにお願いした。まずCDによる緊急地震速報を流し、机の下に潜るという一次避難をした後で、火災が発生したという設定をして二次避難をするという避難訓練である。これがあれば、通常の火災による避難訓練に、2、3分プラスで実施できるのである。ところが後で調査したところでは、実施がなされておらずなかなか難しいと感じた。

安全指導の係としては、繰り返しの指導を感じているが、いきなりこうしたから全職員の意識が高まるというものではないので、意識の高い先生が一人、また一人と増えていけばよいと感じたところである。そして意識の高い先生がそれぞれの学校で発信をするということしかないと思う。1番心配なのは大震災から3年経って、意識の高かった先生も意識が薄れていくことである。

次に備蓄についてであるが、備蓄は2段階である必要がある。予算を要求して時間をかけて整えていく部分と今の予算でできる部分を整理する必要がある。予算が伴うものは市町村の教育委員会等に予算要求をして少しずつでも備蓄を行う必要がある。また保健室の医薬品でも何かあった時のために多目に保管しておくとか、食料品としてカロリーメイトや乾パンなどを保管しておく等、2段階で取り組んで欲しい。

予告なしの避難訓練に関しては、東京の志村第一小学校元校長の矢崎先生の実践例を紹介する。高額となる緊急地震速報の機器の設置の代わりに、職員室の放送施設のところにCDを置いてアラーム音を全校に流し、その場で第一次の避難行動をとらせるという訓練を、抜き打ちに何回も行うというものである。これは、まず机に潜るなど「自分の身を守る」という事を2、3分の訓練で行うという実践例があった。

三会小学校の取組では、平成3年度の雲仙普賢岳の災害やそれを受けての文部科学省の委託事業を中心に取り組まれている。6月3日の噴火災害の日を島原市全体での「祈りの日」と設定され、これを受けて広く防災教育に取り組まれている、一人ひとりの防災意識を高めるのに意味があると思う。また、学校防災アドバイザーや災害ボランティア活動は実践的防災教育総合支援事業の取組だと思うが、防災計画とかマニュアルとか専門家の意見を参考にすることが大事であり有効であると思う。避難訓練の中で高学年が低学年に寄り添う、要支援者の支援というのは大事であり、小学校高学年、中学校、高校の児童生徒による支援を大事にしている。これは市全体の取組、小中連携

を通した地区の取組、そして学校独自の取組ということであるが、それぞれの学校でも見直しをされる上ではモデルになる取組であると感じた。



久木野中学校の取組では平成24・25年度県研究指定校ということでの実践報告であり、研究の柱を立てて実践している。学校安全計画を立て、どの学年にどのような力を付けたいかということをしかり明らかにして取り組んでおられるということは大事なことだと思う。それから月1回のミニ訓練、「揺れる、速報が鳴る」その時点でできるだけ早く自分の身を守る行動を取らせることは繰り返すことで定着させるよい方法である。例えば学期に1回ずつ火災、地震、不審者の避難訓練を実施し、それで終わりというのでは訓練は身に付かないが、それを月1回のミニ訓練で定着まで取り組まれたのは重要なことだと思う。また学校安全委員会における震災後の報告書や冊子の中でも連携の大切さを強調されているが、組織を作るのに、気象台や県の土木砂防課、火山博物館等地域の特徴にあった所の関係機関との連携を図ったことも参考になることである。

護江小学校安藤校長先生の発表における八坂小学校の取組については 安全教育の日常化ということが大きな取組であると思う。また、避難訓練の前に安全教育を実施してそれで終わりというような安全教育ではなく、各教科に盛り込むなど安全教育の日常化と教師の意識の高揚に、全校で取り組んだところに意味がある。

また、危険予知トレーニングについても詳しく説明があったが、子どもに危険を「予測する力」や「回避する力」を育むという意味では有効である。それも防災に限らず学校安全の3領域の全てをカバーするように取り組み、実際怪我が半減したということでも有効なトレーニングであると考えられる。

協議題の、マニュアルについてであるが、平成22年3月に全部の学校に配付された「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」には学校安全全体について幅広く書かれており、何かあった時に役立つ参考文献である。平成24年の3月に文科省から「学校防災マニュアル作成の手引き」が出されている。また25年の3月には「生きる力をはぐくむ防災教育の展開」が各学校に配られている。防災教育に関する実践例（展開例）も記載されており、これらの参考文献をしっかりと活用して欲しい。また訓練で終わりではなく、あくまで検証であって課題や成果を見つけるための訓練でもある。だから評価して見直しまでやらないと意味がないと思う。訓練が目的ではだめである。訓練をして成果なり課題を見つけるためには、生徒の誘導を行いながら見るということは難しいので関係機関との連携が大事である。学校防災アドバイザーを大学教授や専門の人に依頼する県もあるが熊本県では事業が単発にならないよう、事業が終わってからも引き続き関わってもらうために、地元で防災士の資格を持っている人に委嘱をしている。地域の人材を有効に活用し、またその人達に課題を指摘してもらうことも意味のあることである。

マニュアルは膨大な量になるのでそれをいかに使いやすい物にするかも必要なことである。例えばA4サイズでラミネートして簡易式のものを作ると地震発生時、緊急時、傷病者発生時、心肺蘇生法時等に役立つ。食物アレルギーや不審者対応等も作成したが、職員には下敷き代わりにしてもらい活用している。簡易のマニュアルも実際に役立つと思う。

安全教育の進め方については連携が大事であり、どの学校でも強調されていることである。例えば学校安全委員会を立ち上げようとするとうる相当なエネルギーがいるが、既存の「見守り隊（ボランティア団体）」等に、消防署や教育委員会・市の防災課を入れれば学校の安全支援ができる。また民生児童委員の既存の組織を有効に使うとスムーズに行く。

評価については、今後の学校安全の推進に関して、キーワードとなるのが発達段階に応じた評価である。低学年、中学年、高学年ではどのような力を身に付けさせ、それをどう評価するのかという部分がこれからは大事になってくるのではないと思う。本日の研究内容をそれぞれの学校で発

信じて学校安全を充実させて欲しい。

安全管理・安全教育は自分の命を自分で守るとい
う教育の中で最も大切なものであると思う。危険を予測し的確に判断し、そしてすぐ行動できる子供の育成というのは地域を含めた学校の重要な教育的課題だと思う。

